



Your Dreams, Our Challenge

低汚染型高耐候性フッ素樹脂塗料クリアー仕上
[打放しコンクリート保護工法]

ボンフロン水性クリアーコート工法

BONNIFLON



保護性・環境性に優れた、 ボンフロン水性クリヤーコート工法

ボンフロン水性クリヤーコート工法は、耐候性に優れた水性フッ素樹脂クリヤーを上塗りとする
打放しコンクリート保護工法です。
コンクリート素地そのままの意匠性を表現しつつ長期にわたる保護が可能です。
下塗りから上塗りまでオール水性一液形塗料による材料構成のため、取り扱いやすく、
作業性・安全性・低公害性に優れた、人と地球に優しい環境対応型塗装システムです。

特 徴

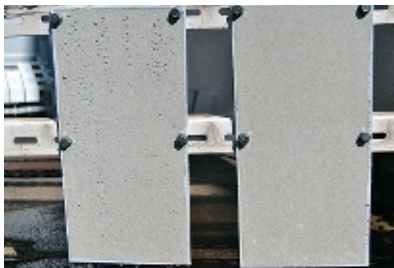
- 1 高耐候性フッ素樹脂クリヤーにより、
長期にわたりコンクリート素地の保護が可能です。
- 2 コンクリート素地の**自然な意匠を損なわず、長期にわたって維持**します。
- 3 オール水性一液形塗料による材料構成のため、取り扱いやすく、
作業性・安全性・低公害性に優れています。
- 4 溶剤系コンクリートクリヤー仕上げ工法に比べ、
コンクリートの吸い込みの違いによる仕上げムラ等が発生しづらいので
スプレー塗装仕上げだけでなく、ローラー塗装仕上げにも適しています。
- 5 **従来の工法よりも省工程、高耐候**でさらに使いやすくなりました。

低汚染機能(セルフクリーニング機能)

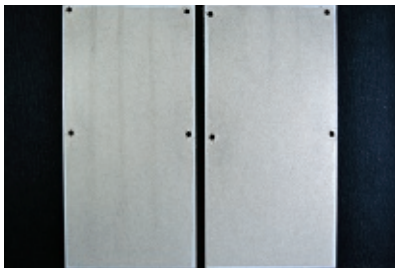
塗膜表面に親水・撥油性を持たせます。晴天
時:油分成分を含む汚染物質を付着しにくく
し、降雨時:雨水が全面的に流下して汚れを
押し流すので雨筋ができにくくなります。



親水性比較(左:従来型 右:低汚染型)



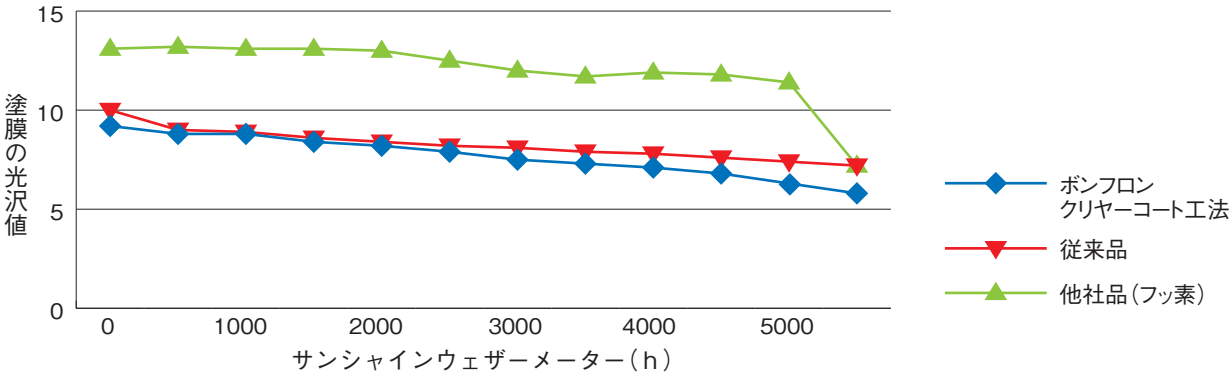
雨筋比較(左:従来型 右:低汚染型)



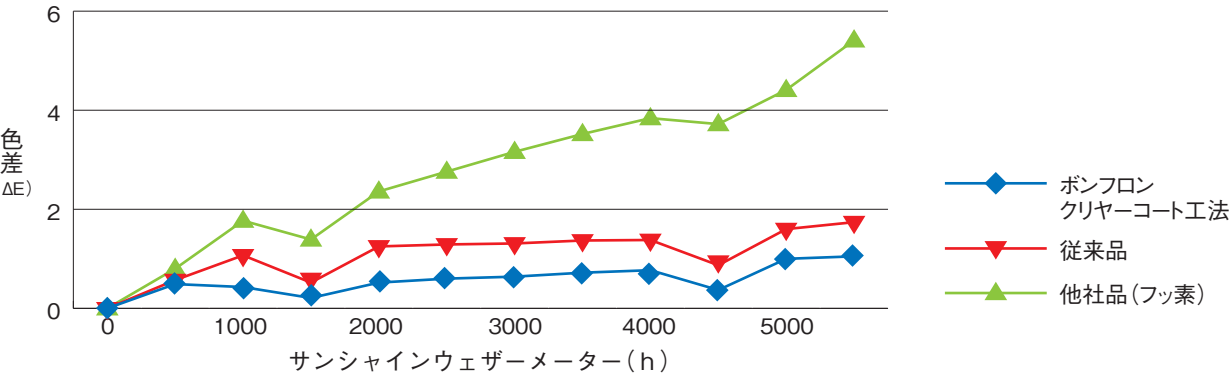
塗膜性能

促進耐候性試験において、同じフッ素樹脂塗料と比較して、はるかに優れた耐候性を維持します。

水性フッ素クリヤー光沢値比較(つや消し)



水性フッ素クリヤー色差比較



●ボンフロン水性ACガードコート表面含浸材評価

1. 含浸深さ試験(ボンフロン水性ACガードコート)

上記材料を塗布した試験体を2分割した後、1分間水に浸漬し、その断面から含浸深さの平均値を測定(試験方法:JSCE-K571-2005に準ずる)

測定箇所(n=6)	n=1	n=2	n=3	n=4	n=5	n=6	平均
含浸深さ(mm)	3.40	2.20	2.60	3.50	2.40	2.80	2.82

2. 透水比試験(ボンフロン水性ACガードコート+ボンフロン水性ACミドルコート+ボンフロン水性ラストコートⅡ)

上記工法を塗布した試験体に透水試験機を取り付け、透水比を測定(試験方法:JSCE-K571-2005に準ずる)

	a) 試験体の透水量(ml)	b) 原状試験体の透水量(ml)	c) 透水比(%)= a) × 100 / b)
1日後	2.0	10.0	20.0
7日後	11.5	23.5	48.9

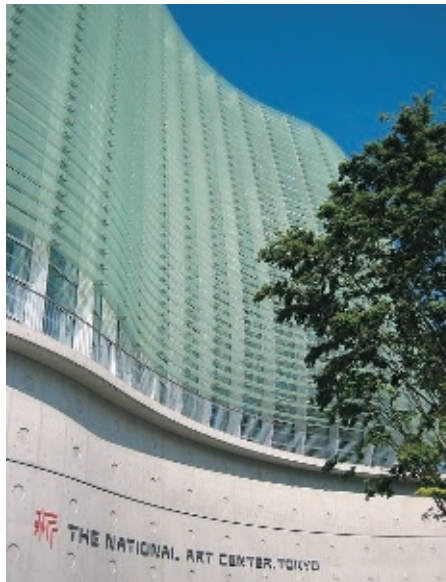
3. 吸水率試験(ボンフロン水性ACガードコート+ボンフロン水性ACミドルコート+ボンフロン水性ラストコートⅡ)

上記工法を塗布した試験体を7日間水に浸漬し、その吸水率を測定(試験方法:JSCE-K571-2005に準ずる)

	質量(g)	7日浸水後質量(g)	吸水量(g)	吸水率(%)
試験体	2301.78	2304.42	2.64	37.08
原状試験体	2288.88	2296.00	7.12	-

ボンフロン水性クリアーコート工法の施工例

国立新美術館



ホキ美術館

広島大学
東千田未来創生センター



秩父市歴史文化伝承館



新座市役所 新庁舎

ボンフロン水性クリヤーコート工法の塗装

ボンフロン水性クリヤーコート工法 標準仕様

塗装箇所：屋内外

適応下地：打放しコンクリート、普通プレキャストコンクリート板、押出成形セメント板

工程		使用材料 ^{注3}	希釈(%)	標準所要量 ^{注1} (kg/m ²)	塗回数	塗装間隔(23℃)	施工方法
下地処理		被塗装面をチェックし、塗装に支障のある付着物、汚れ等を除去する。ジャンカ・コールドジョイントの下地処理など。					
1	下塗	ボンフロン水性ACガードコート 注2	0	0.12～0.18	1	16h以上	ローラー
				0.13～0.20			スプレー
2	中塗	ボンフロン水性ACミドルコート	0	0.10～0.15	1	4h以上	ローラー
				0.11～0.17			スプレー
3	上塗	ボンフロン水性SRラストコートⅡ	0	0.08～0.12	1	—	ローラー
				0.09～0.13			スプレー

注1) 標準所要量については、各種施工方法の塗着効率を下記として算出しております。

施工種	塗着効率(%)
刷毛・ローラー	80～100
エアレススプレー	60～80

標準所要量を下まわらないでください。

注2)

- ①ボンフロン水性ACガードコートは素地の吸い込み程度により、塗装回数を調節してください。素地の吸い込みが多い場合は2回塗装を行ってください。
- ②各材料は下地に含浸するのに時間がかかりますので塗装間隔は必ず守ってください。
- ③各材料は使用前に必ず電動マゼールで入念に攪拌を行ってください。

注3)

内外部で施工可能ですが、内部施工の場合は局所排気などの手段を講じて十分に換気を行ってください。

注4)

本工法は外壁等の垂直面への塗装には問題ありませんが、天端等の水平面は環境が厳しく垂直面に比べ早く劣化します。

コンクリート下地の調整

打放し面の著しい色調の差・補修跡などの色調調整が可能です。

【全面調整の場合：AC下地調整材W】

- ボンフロン打放しコンクリート保護工法用の専用下地調整材で、多様な打放しコンクリート面の色調調整に対応できます。
- 水性一液タイプで、特殊合成樹脂バインダーを主成分としており、コンクリートからのエフロの発生を抑制します。

※詳しくは、塗装仕様書をご覧ください。

【部分調整の場合：ボンフロン水性GT】

- ラジカル制御型フッ素樹脂塗料のため、長期耐久・耐候性に優れています。
- 部分補修で使用しても部分劣化しづらく、補修跡が目立ちません。

設計施工上の注意点

- ボンフロン水性クリヤーコート工法はクリヤーまたはカラークリヤーで仕上げ、基材のありのままの姿を活かす工法です。そのため打放しコンクリートの補修はできるだけ少なくするようにお願いします。
- やむを得ず補修を施した場合や、コンクリートの色ムラ等が発生した場合は、十分に乾燥した後、AC下地調整材WIにて下地調整してください。

塗装上の注意

適応下地

- 打放しコンクリート面(塗装合板型枠使用)

下地の条件

- 表面含水率10%以下(Kett高周波測定)
- pH=10以下
- 下地の養生期間は、夏季28日以上、冬季35日以上
- 表面の脆弱部分、未硬化のセメント粉化物、エフロ等は、研削、ハツリ、高圧水洗などの方法で十分除去して下さい。尚、除去が不十分な場合、性能不良の原因となります。
- クラック、巣穴等は、セメント系処理材で事前に補修を行なって下さい。
- 補修材並びに下地調整材には、必ずセメント系の材料を使用して下さい。セメント系以外の材料を使用した場合、十分な性能が得られません。

下地が、上記条件に適合しない場合は、事前に付着等の性能確認試験により、異常の認められない事を確認した上で、施工して下さい。

塗装上の注意

- 各材料は、使用前に必ず電動マゼールで入念に攪拌を行って下さい。
- 各材料は、塗装時乳白色を呈しますが、乾燥すると透明になります。
- 下地補修が必要な場合は、必ずセメント系材料で行なって下さい。

- 必ず本仕様指定の材料を使用し、他の製品は絶対に使用しないで下さい。
- 各材料の所要量並びに塗り回数は、必ず厳守して下さい。不足すると降雨等による水染みの原因となります。
- 各材料は、乾燥すると透明になり、塗装面と未塗装面の区別がつきにくくなりますので、塗り残しには、十分注意して下さい。
- 各工程での乾燥は、十分行なって下さい。乾燥が不十分な場合、仕上がり感が悪くなったり、十分な性能が得られない場合があります。
- 本工法は、クリヤー仕上げのため、コンクリート本来の色のバラツキや打放し面の良否は、そのまま現われます。
- 本工法は、躯体上にクリヤー塗膜を形成するため、塗装前の艶や色調と異なる場合があります。
- カラークリヤー仕上げも可能です。色調は事前にサンプルで確認した上で、施工して下さい。
- 塗装器具は、使用後速やかに水洗いを十分行なって下さい。
- 気温5℃以下、湿度85%以上での塗装作業は、避けて下さい。
- 外部塗装で降雨、降雪の恐れがある場合及び強風時の塗装は避けて下さい。

材料の品質管理上の注意

- 低温時の凍結防止など、品質管理上できるだけ屋内に保管して下さい。やむを得ず、屋外に保管する場合は、上床や保護シートカバー等のご配慮をお願い致します。
- 詳細な情報が必要な時は、製品安全データシート(SDS)をご参照下さい。

*下地調整材が施工されている場合は、吸込みが少なく下塗材がだれる事が予想されますが、仕上がりへの影響はありません。
ボンフロン水性ACガードコートの塗布量が少ないと、塗装仕上がり後の雨染みなどの原因となるため標準所要量、塗装回数を遵守願います。



Your Dreams, Our Challenge



この印刷物は地産地消・輸送マイ
レージに配慮したライスインキを
使用しています。



ルミフロンはAGC㈱の登録商標です。 ポンフロンはAGCコーテック(株)の登録商標です。 2019.9.1000.TOY

AGCコーテック株式会社 <https://www.agccoat-tech.co.jp/>

本 社	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町2-9	コンフォール安田ビル5F	TEL : 03-5217-5101	FAX : 03-5217-5106
西日本支店	〒530-0012	大阪府大阪市北区芝田1-1-4	阪急ターミナルビル12F	TEL : 06-7663-0695	FAX : 06-7663-0697
東北支店	〒983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡2-2-11	仙台KSビル9F	TEL : 022-299-6365	FAX : 022-299-6368